

大和市子ども読書活動推進会議 会議記録

会議名	令和4年度 第3回 大和市子ども読書活動推進会議	
開催日時	令和5年2月21日(火)15時45分～17時	
開催場所	文化創造拠点シリウス 610大会議室	
出席状況	参加委員	<推進会議委員> 今宮 智子、伊禮 利奈、山口 真由子、吉野 敦子、古木 幸一、矢嶋 千草、大川 伸子 (順不同・敬称略)
	欠席委員	渡辺 康子、長嶋 智美 (順不同・敬称略)
	市側出席者	<事務局職員> (3名)
	指定管理者	<図書館スタッフ> <2名>
	傍聴人人数	0名
公開非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開	
審議又は検討経過及び結果	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の出席状況の確認(9名中7名出席) ・配布資料確認 <p>2 議事</p> <p>(1) とも読書よむ読むプラン実施計画について(資料1)</p> <p>◎事務局より、資料1を基に、とも読書よむ読むプランの実施計画について説明。</p> <p>委員: 1～3のどの案で行くべきか推進会議として答えを出すということによいか。</p> <p>事務局: 推進会議の意見を元に事務局で決定することになるが、実施計画の進捗点検は当会議の主要な所掌事務なので、そのつもりで意見を出してほしい。</p> <p>委員: 数より内容であることは皆さんも思っていることとは思うが、前回、前々回と新型コロナの影響下で評価した経験も考慮した上で考えてみたい。</p> <p>委員: 3番の案は、1番と2番の良いところをとっているが、両方の観点で評価するのも大変だと思う。特に質の評価は判断が難しい。</p> <p>委員: 前実施計画の中では、具体的な目標が取組の中に出てきているが、今年度に関してはこの取組はこれをするといった具体的な形が出ていない。具体的な回数などは年度ごとに計画していくのか、5年間全体で計画するのか。</p> <p>事務局: 指摘のとおり、計画段階では各取組の行動パターンまで落とし込んだものにはしていない。計画初年度の今回は、方策の達成のためにどのような取組を行ったかを各所管にフラットな視点で報告してもらう。その内容が、今後の基準となる。</p> <p>委員: 報告を見て点検していくということは、自然と総合的な評価方法になるのではないか。大きな目標で、絵本を生活の中に入れてしっかり活用することが</p>	

できたかどうか、と評価するというのであればいいが、年度の中で振り返って計画をして、具体的な項目の評価を行うのであれば、必然的に両方の視点が必要になるのではないかと思う。

委員：実際にやってみてどうなるかとは思いますが、数値的な部分の評価も必要になると思う。

挙手確認にて全員3案。

委員：3の案で進めていってもらいたい。

(2) 第46回大和市民まつりイベント参加内容について(資料2-1, 2, 3, 4)

◎事務局より、資料2を基に、第46回大和市民まつりイベント参加内容について説明。

委員：以前は、工作用の机と椅子を置き、マイクを置いて、読み聞かせをして、ダンボールで木かげの図書館をつくるといった内容だったが、今回は同じような展開はできなくなるということで考えてほしい。

他の団体のテントが隣に来ることで前のように一帯を大きく使うことはできなくなるし、人の流れも変わると思う。客層も、今までの未就学児と親だけではなく、他のテントから小学生から中学生くらいまで訪れるかもしれない。

具体的に何をやるかはこれから詰めていくが、この出展は、図書館と図書・学び交流課で出すものではなく、この推進会議としての出展なので、都合の合う委員はできるだけ参加をお願いしたい。

委員：4年ぶりのリアル開催となる。資料にある第42回の出展内容は、発展してきた最終形と言えるが、実際に参加した経験から言っても、開催状況が変わった影響は読めない。前回の開催を最大規模として、そこからどう調整するかという検討をしてほしい。

図書館：前回の開催時は大型絵本を11冊持って行っていき、段ボール本棚には主にブックリストの本を入れていた。

委員：委員の中で、これを持っていきたい、森の中で読みたい本を図書館に伝えておけば用意してくれる。工作コーナーは図書館にかなりの労力をかけて準備をしてもらうことになるがぜひ続けたらよいと思う。

事務局：前回は大きく場所をとるコーナーが3つあった、どれか1つを減らす、減らした代わりにダンボール本棚と読み聞かせコーナーを共存させるといった案もある。この状況が続くのか、前の姿に戻るのかは今のところはわからないが、拡大方向に進むのは難しい。

委員：親子の隣でおすすめの絵本を伝えたり、経験を踏まえてアドバイスしたりするコンシェルジュ的なこともできるので、おはなし会のコーナーと本棚のコーナーは一緒に良いように思う。

事務局:PAの準備は図書館で可能か。

図書館:PAの準備は可能。ダンボールハウスが無くなったとしても、読み聞かせスペースがなくなってしまうのでこども用の机や椅子はワンシート分しか持っていけないと思う。

事務局:座卓はなしでよいか。

委員:意外と使われていた印象がある。

座卓に集まっているのを見て、おはなし会を始める流れがあった。

委員:マイクを使ったスタンダードな形でのおはなし会は土曜日だけの実施だった。日曜日はパレードがあって、とても読み聞かせどころではなかった。

事務局:今回のパレードはスタジアム内だけの実施になる。

委員:工作コーナーは準備が大変だが、あった方がよいと思う。

工作コーナーの設置について賛成多数。

委員:机を6個にするか4個にするかといった調整はあると思うが、図書館へ願います。

図書館:スペースは検討する。

委員:この展示の目的は、普段本を触れないような家庭の子にも図書館で本が借りたくなるような手伝いができないか、という敷居を下げた読書活動の推進なので継続していきたい。

事務局:最終的な内容の決定はこの場ではできないので、意見を踏まえた最終的なレイアウト等はどこかのタイミングで出席の確認と共にフィードバックする。

(3)「絵本のまち」関連事業について

◎事務局より、資料3を基に、「絵本のまち」関連事業について説明。

委員:セカンドブックの引換期限は？

事務局:1年間としている。

委員:引換率39.9%は予想と比べて多いか、少ないか。

事務局:交換期限である1年間でみるべきと思うので、今の段階ではわからない。最終的に6割くらいと予想している。

事務局：コンペを行っただけで終わってしまっは寂しいので、やまと絵本大賞の大賞作品の使い方のアイデア等があれば教えてほしい。

委員：まちなか絵本スポットのラインナップに入れてはどうか。

委員：市民まつりなどで使えたら良いと思うが、大賞の製本はいつ頃の予定か。

事務局：契約のタイミングもあるので、早くても夏以降になる。

(4)その他

事務局：次回の会議は6月下旬に開催を予定。

3. 閉会

以上